

# こもろ未来 プロジェクト 2024

小泉としひろ政策集  
2024年2月10日



## 未来へつなぐ まち・ひと・しごと

健幸都市こもろ  
「小諸版ウエルネスシティ」～第2章～

公式サイト



## こもろ未来プロジェクト基本政策2024

### 未来へつなげる、まち・ひと・しごと

～健幸都市こもろ「小諸版ウエルネスシティ」第2章～

小諸市は、2000年頃を境に急激な人口減少の進展や社会変容への対応の遅れ、また、新幹線が通らなかったことによる影響などを受け、長らく活気を失っていました。

しかし、多くの市民や団体、企業、関係機関の協力のもと共に汗水流して取り組んできたまちづくりにより、コロナ禍にあっても街中では新規出店があいつぎ、郊外でも特色ある数々の企業の誘致に成功しました。また“選ばれるまち”として人口動態においても大幅な転入超過が続くなど様々な施策が多面で目に見える成果をあげ、現在では“元気のあるまち”、“勢いのあるまち”として県内はもとより全国から注目されるようになりました。

一方で小諸に限ったことではありませんが、厳しさを増す地方財政、少子高齢化・人口減少の進行、地域の特性を活かしたバランスの良い発展、脱炭素社会の実現、安全安心のまちづくり、防災・減災体制の構築など市政を取り巻く環境には多くの課題があります。

特に深刻化する少子化問題に対処するため、小諸市では「自然増（死亡者数より出生者数が多い状態）への挑戦」として“若者が暮らしやすいまち”、“子育てが楽しいまち”、“子ども・女性を大切にすまち”など様々な環境整備を行いながら実現したいと考えています。

また、子どもから高齢者まで皆が健康で生きがいを持ち、安心安全で豊かな人生を営めるまちを目指す「小諸版のウエルネスシティ」において、全ての人が最後まで自分らしく人生を全うできるよう各種施策を行っていきます。

その他の課題についても引き続き多くの市民や団体、企業、関係機関の力をお借りしながらオール小諸が一丸となって取り組んでいけるよう適切な舵取りをしてまいります。

引き続き今後の小諸市のビジョン・あり方として、健幸都市こもろ「小諸版ウエルネスシティ」＝「市民が健康で生きがいを持ち、安心安全で豊かな人生を営むまち。市内外の人々が“自分に還る”“何度でも帰りたい”“住みたい・住み続けたい”まち」をビジョンに掲げて、その実現に向けた政策を展開していきます。

現在の小諸市の元気や勢いを止めることなく、さらなる発展を目指していくため、そして、今いる市民と次世代への責任を果たすために、私は歩みをとめることなく挑戦し続けます。

2024年2月10日

小泉俊博

## こもろ未来プロジェクト（基本政策）

### 【基本姿勢】

#### 1. 民間の発想と着眼点で「ワクワク」する市政を創り、行動します

「官」から、意欲ある住民主体の「民」の発想へ。柔軟でスピード感のある着眼点で取り組み、戦略的かつ効率的な市政運営を進めます。「ワクワク」するような新しいかたちの「こもろ市政」を創り、誠実に行動します。

#### 2. 地域の課題解決に「市民とともに協働」で取り組みます

「地域のみなさんの持つチカラ」を活かし、行政がそれを増幅していくことが、真の意味での「強い地域づくり」につながると考えます。身近な課題に市民の皆さんと一緒に取り組み、地域の力の向上に努めます。また、頑張っている人や団体、企業を応援する小諸市を創り、まち全体に元気を取りもどします。

#### 3. 政財官産学連携や広域連携の「太いパイプ」を市政戦略に活かします

政財官ならびに産学との連携強化を図ると共に、地域における様々な広域連携をこれまで以上に密にし、市政戦略に活かして小諸市の力に変えます。

### 【6つの柱 健幸都市こもろ＝小諸版ウエルネスシティ形成のために】

1. 心豊かで自立した人が育つまち【子育て・教育】
2. 豊かな自然と環境を未来につなぐまち【環境】
3. 全ての人のいのちが輝くまち【健康・福祉】
4. 稼ぐ力をもった元気なまち【産業・交流】
5. 安全・安心で暮らしやすいまち【生活基盤整備】
6. 市民協働で支える健全な行政経営【協働・行政経営】

（注）6つの柱は小諸市総合計画に則っています。

### 【実行に向けた手法の基本方針（原則）】

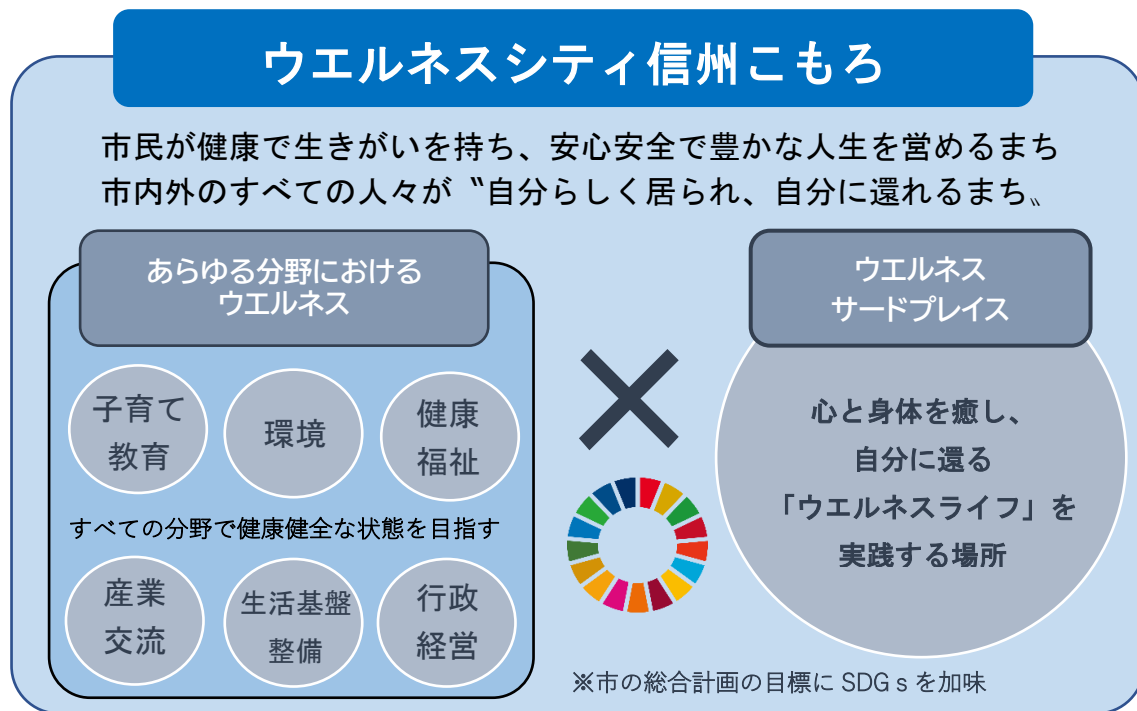
- ① 知恵を出し、汗をかき、人材や資産の活用、市民の参加と協働によって最小の経費で最大の効果を上げていきます
- ② 小諸の良さや魅力を戦略的・効果的に宣伝、周知するシティープロモーションでは、テレビ番組、新聞記事、インターネット等の費用のかからない無料媒体を有効活用していきます
- ③ 客観的な「数値」設定を心掛けることにより、「見える化した」目標達成度による検証を行います

### 【具体的な実施時期】

★…直ちに取り組むべき政策

●…5～10年先を見越した中長期的な展望の中で実現していく政策

●健幸都市こもろ「小諸版ウェルネスシティ」の概念図



\*ご 注 意\*

1. 「こもろ未来プロジェクト2024」について

「こもろ未来プロジェクト2024」は、2024年→2027年（市長任期の期間）の4年間に実現または着手する新たな重要政策及び2016年に発表した「こもろ未来プロジェクト」、2020年に発表した「こもろ未来プロジェクト2020」から継続して実現していくべき重要政策をまとめた政策集です。

2. SDGs（2030年までに持続可能なよりよい世界を目指す国際目標）の17のゴールの表記

政策の「6つの柱」毎にSDGsの17のゴールのうち関連するゴールを表記しました。



# 1. 心豊かで自立した人が育つまち

## 【子育て・教育】



子育て世代に、より良い子育て環境や教育環境を提供します。特に低学年で国語学習を徹底することにより基礎学力を確立します。

また人生100年時代において豊かな人生を送るための生涯学習を充実させます。小諸の自然や歴史、文化と医療福祉など子育て・教育に適した環境を活かし、小諸ならではの子育てや生涯にわたり学びが実践できる環境を整えます。

### ★若者・子育て世代の希望を実現するため、出会いや結婚、子育てまでのライフステージに応じた支援の充実に取り組み、「自然増への挑戦」を行います（継続）

女性や若者が幸せに暮らせるまち、子どもを産み育てることが楽しいまちなどを目指しながら、それぞれのライフステージに応じた支援の充実を図る取り組みを行い、人口の「自然増への挑戦」を行います。

### ★子育て支援に関する各種事業のさらなる充実を図ります（継続）

ファミリーサポートセンターについては処遇改善を行い、サービス提供会員を増やす等により事業の利用を促進します。なお、処遇改善に係る費用は市が負担することで子育て家庭の負担軽減を図ります。また民間のチカラを活用した子育て支援について、地域資源の掘り起こしとチカラの結集のための住民周知を行うなどにより子育て環境の充実を図ります。さらにひとり親世帯の児童に対しては「学習支援」を展開します。

### ★3歳未満児の保育料の軽減措置については県と連携協力して内容を充実させます（新規）

3歳未満児の保育料については、県と連携協力しながら国による制度の対象とならない世帯の負担軽減に取り組み、第2子は世帯の収入により半額又は無償化、第3子については完全無償化を早期に実現します。

### ★将来にわたりより良い保育環境を維持するために引き続き保育士確保に努めると共に、「(仮称) 保育園再配置計画」の策定に着手します（継続）

少子化が進み未就学児の人口が減少する一方で、共働き世帯の増加や就労人口の減少などにより、未就学児保育の需要が今後も増えることが見込まれることから、引き続き保育士の確保に全力をあげると共に民間施設との役割分担なども含めた保育所の再配置計画の検討を進めます。

**★2023年7月に策定した学校再編計画により、2028年度の芦原中学校区統合小学校の開校を目指すと共に廃校の後利用についてしっかりとした道筋をつけます（新規）**

学校再編計画に示された小諸市全体で小中一貫教育を推進していくと共に義務教育学校の実現についても十分に検討を行います。2028年度に芦原中学校区の統合小学校が開校できるよう事業を着実に進めると共に廃校になる学校施設の後利用については、地元の声に丁寧に向き合い、民間活用、地域利用など市民益に繋がる有効活用となるように進めます。なお小諸東中学校区の再編については、芦原中学校区の再編後に進めます。その間は小中一貫教育を進めながら児童生徒数の推移を把握しつつ、既存校舎の大規模改修を継続するなど児童生徒の教育環境を整備していきます。

**★小学校低学年で国語教育を充実させ、基礎学力の確立を目指します。また学習環境を充実し、学校での学びを推進します（新規）**

生きていくうえで必要となる基礎学習の確立、学習習慣を身につけるため特に小学校低学年での国語教育に力を入れます。また多様なニーズや学校運営上の諸課題の解消に向けた支援を継続し、「学び」を支える体制づくり、ICT環境など学習環境を充実させ、新たな学習指導要領に沿った学校での学びを推進します。

**●学校、家庭、地域、関係団体などすべての主体の連携・協力により、不登校の未然防止はじめ、「学びを支える体制づくり」を進めます（継続）**

各小中学校へは県からの人的配置が無くとも、引き続き市単独で支援教員、学習生活支援員を配置し、学校、教育支援センター、教育委員会事務局など関係機関が連携して、子供たち一人ひとりをチームで支える体制の強化に取り組みます。また、教育の原点ともいえる家庭教育がしっかりと行えるように、子育て世代に対し、しつけや子育てに関する悩みや相談に応える相談体制を整えると共に学習会等を開催します。さらに民間ボランティアによる遊びや学びの場の創設を促し、支援していきます。

**★給食業務の民間委託を進めることで、小諸市の誇る「自校給食」を継続します（継続）**

小諸市が誇る自校給食を堅持し、食育と連係した美味しい給食、作り手の姿が身近に感じられる給食を今後も継続します。また、自校給食を堅持するためにも、生活困窮家庭を除き、各家庭にも現状のご負担（材料費のみ）をいただくと共にこれを発展させるため、給食業務の民間委託を推進していきます。

なお、物価高騰など外的な影響により家計に負担を強いる費用が発生する場合には、当面、相当分を市が負担することを継続します。

**★早期からの教育相談・支援の充実と特別支援教育の推進（継続）**

特別な支援等が必要な子どもを早期発見し、乳児期から幼児期にかけて、専門的な教育

相談・支援が受けられるよう、医療、保健、福祉との連携体制を充実させます。また特別支援学級や特別支援学校において、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に最も的確に応える指導を提供し、自立と社会参加を見据えた支援を推進します。さらに共生社会の実現に必要なインクルーシブ教育システムの構築に向け、多様な学びの場の整備、様々な場面での必要な合理的配慮ができるよう、より具体的な研修機会を提供します。

**★高地トレーニングを縁としたトップアスリートと子どもたちの交流事業を推進すると共に長野県で開催される2028年の国民スポーツ大会（レスリング競技）の準備を着実に進めます（継続）**

スポーツ振興を図ると共に子どもたちの育ちの一助にするため、高地トレーニングで小諸を訪れるアスリートや競技団体と市民の交流事業を積極的に行います。

また、長野県で開催される2028年の国民スポーツ大会のレスリング競技を成功させるため、レスリング協会や体育（スポーツ）協会と協力して開催地実行委員会を設置し準備を行います。

**★「音楽のまち・こもろ」の実現に向け、各種事業の充実を図ります（継続）**

藤村文学や高浜虚子の俳句などの文学、小山敬三、白鳥映雪などの絵画芸術に並ぶものとして、小諸の音楽活動を積極的に推進し、市民サークルやプロの音楽家の演奏会などを支援すると共に、子どもたちを対象とした作曲コンクールを引き続き行うなどにより、まちじゅうに音楽があふれる「音楽のまち・こもろ」を実現します。

**★2026年開校の「小諸義塾高等学校」を全力でサポートします（継続）**

「小諸義塾高等学校」の開校にあたっては、地域の人々と共に学び、地域の未来を共創する「小諸共学共創コンソーシアム」として、新校独自の探求的プログラムの実現へ向け、地域と連携した学びの提案を行うと共に、地域連携室へのコーディネーターとして積極的に関わるなど全力でサポートを行います。

**★国重要文化財「旧小諸本陣」の解体復原事業を推進します（継続）**

先人から引き継いだ小諸の財産である国重要文化財「旧小諸本陣（問屋場）」を後世に遺すため、継続して解体復原事業を2026年度までの工期で行います。問屋場周辺の施設の整備活用方針に基づき都市再生整備計画事業を活用してエリア全体の価値を向上させ、まちなかの賑わいにつなげていきます。

**●郷土学習の場を設け、郷土愛溢れた子どもの育成に努めます（新規）**

現在閉館中の小諸市郷土博物館に収蔵された展示品などを遊休の公共施設に移転し展示、管理、研究するなどして、子どもたちの郷土愛を育む場を創設していきます。また、小中学校による黒斑登山など地元の山に親しむと同時に動植物などの自然、景観や風景、風土に楽しみながら触れる機会を多く作ります。

★各種審議会や委員会などで若者や女性の市政参画を進めていきます（継続）

若者や女性の市政参画を強力に推し進めるため、女性団体はもちろん、子育て世代の方も気軽に参加できるよう企画や運営をさらに工夫します。これにより各種審議会、委員会、行政、議会など幅広く若者や女性の活躍ができる社会を目指します。

★全ての人の人権が尊重されるジェンダー平等社会の構築を目指します（新規）

性加害、精神的被害（モラハラ）などDV撲滅に向けた対策強化を行います。また離婚後の養育費不払いの支援策の検討やシングル（独身・離別・死別）であっても自立し住みやすい地域づくりの推進を行います。さらにセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（SRHR＝自分のセクシュアリティや望む時に望むだけの子どもを持つこと（持たないこと）をすべての人が自分で決められる権利）への取り組みを行い、「産まないことを選択する権利」を保障する支援（緊急避妊薬への助成、貧困層への避妊具、生理用ナプキンの無償配布など）を検討します。

2. 豊かな自然と環境を未来につなぐまち

【環境】



年々深刻化する環境問題へ対処するため、小諸市では他の自治体に先駆けて国から選定された脱炭素先行地域として、ゼロカーボンシティに向けて施策を着実に実行していきます。

また、人々を感動させ、癒すチカラをもつ浅間山や千曲川、森林や水資源などの豊かな自然環境を保全し、健全な状態で次世代に引き継いでいきます。

★積極的な意識啓発と適正なごみ処理により、ごみの減量と再資源化を進めます（継続）

ごみ減量アドバイザーや衛生委員などの協力を得て、市民や事業者に積極的な意識啓発を行い、ごみの減量化と再資源化を進めていきます。

また、不法投棄が行われた場所や状況についての情報を分析することにより、これらの行為が行われやすい場所のパトロールを強化し、未然防止に努めます。



**★自家用車を利用せず、歩いて生活する習慣づけと公共交通の利用を促進する施策を行い、二酸化炭素の削減に努めます（継続）**

環境や健康を考え、歩いて生活することの習慣づけを促します。また、多極ネットワーク型コンパクトシティを進める上でのネットワークの強化と高齢者の交通事故多発による免許返納などの問題解決も含め、公共交通の利便性の向上、利用促進を図ることにより二酸化炭素の削減を行います。

**★2023年7月から施行した「小諸市太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する条例」を、厳格、適切に運用し、自然環境や景観などと調和した再生可能エネルギーの活用をめざします（継続）**

地域住民と事業者との相互理解のもと、豊かな自然環境や景観の保全調和を図りながら、災害の発生を防ぐと共に太陽光発電事業など再生可能エネルギーの促進を行い、脱炭素社会に移行できるよう、市条例や各種法令を厳格、適切に運用します。

**★森林環境税（森林環境譲与税）、長野県森林税などの有効活用を図ります（継続）**

森林を健全な姿で次世代に引き継ぐために森林経営管理計画を策定し、森林環境税（森林環境譲与税）や長野県森林税を有効活用し積極的に森林整備を進めていきます。特に小諸型の森林特性を活かした自伐型林業を推進します。また、森林の里親事業を有効に活用し企業の皆様と共に森林保全に取り組みます。

**★環境省に選定された脱炭素先行地域を着実に実施していきます（新規）**

コンパクトシティの施策を脱炭素の取り組みに発展させることで、地域資源と経済の循環を創出し、最終的にまちの持続性と活気を高めることを目指します。脱炭素の取り組みにより、エネルギー利用の最適化による事業経済性の向上やレジリエンス（適応力）の強化など、地域の魅力向上とさらなる賑わいの創出につながります。

**★水資源の確保、安定供給と有効利用の促進を図ります（継続）**

小諸市の財産である良質な水資源の確保と水の安定供給を図ります。そのため水源地域の環境を保全すると共に節水意識の普及啓発を行います。

また、全国的に外資による水源林の買収の動きが活発化する中で、近隣市町村とも情報の共有を図り、国の規制等の動向をつかみながら状況を注視していきます。

**●地域の状況に応じた水洗化の促進と適正な排水処理により公共用水域を保全します（継続）**

地域の状況に応じた水洗化を促進し、事業所や家庭からの排水の浄化、水質汚濁物質の除去を推進します。また公共用水域の水質調査を行い、地下水汚染の未然防止を図ります。

### 3. 全ての人のいのちが輝くまち

#### 【健康・福祉】



市民の誰もがいのちを大切にし、いのちを大切にされ、いのちをつなぐことを究極の目標とします。子どもから高齢者まで全ての市民一人ひとりが健康に心がけ、みんなので支え合い、幸せを実感できる市政を実現します。

また、高齢者が住み慣れた地域で安心して生き生きと暮らせる地域づくりを推進します。

#### ★「こもろ健幸マイレージ事業」を充実し、健診受診率を向上させます（継続）

適度な運動習慣を身につけると共に生活習慣病を予防するための定期健診を促す「こもろ健幸マイレージ事業」のさらなる浸透を図り、健康・長寿のまちづくりを推進します。さらに「健幸測定会」やデータ管理などより身近に健康を意識する仕組みづくりを行います。

#### ★健康づくり協力事業所と連携し、市民の健康意識の向上と健康習慣の定着を図ります（継続）

市の福祉担当課や関係機関などと協力して地域包括ケアシステムの構築を進めると共に、地域の医療機関や福祉施設と連携して、医療・介護の安心安全や、市民の健康づくり、介護予防に取り組みます。また地域と協働して健康づくり・介護予防を進め、若い世代からの健康づくりやプレコンセプションケアの啓発にも力を入れます。

#### ★帯状疱疹ワクチン及びコロナ感染症ワクチンの接種費用の助成を実現します（新規）

ワクチン接種費用が高額で、重症化が心配される帯状疱疹ワクチンやコロナ感染症ワクチンについて、市民の健康を守るために接種費用の一部を助成する制度を作ります。

#### ●「自然と健康づくりのまち」の考えで、ノルディック・ウォーキングなどの公認コースの設置に取り組み、健康志向の観光客の誘客を目指します（継続）

「坂のまち・こもろ＝歩かない」を「坂のまち」だからこそ、“健康づくりに良いウォーキングができる”といった逆転の発想を、インセンティブ（目標を達成するための誘因）につなげます。具体的には公認コースの設置や医療研究機関の協力を得て、市民の歩く習慣を促し、さらに健康志向の市外の誘客にもつなげます。

#### ★関係機関等との連携を密にし、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援を行います（継続）

「こどもまんなか社会」の実現に向け、新たに設置する「こども家庭センター」と関係各課、関係団体の連携を密にして効果的な支援体制を構築し、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援をさらに進めていきます。引き続きハイリスクの家庭への適切な支援を行うと共にリスクの程度が中～低程度の家庭により具体的な支援が行えるよう「こども家庭センター」に相談支援窓口を一本化し、支援対応の拡充を図ります。

### ★地域の総合型スポーツクラブやダンススクール、自治会、高齢者クラブ、保健推進員など多様な主体による健康づくり、仲間づくりの機会や場を創出します（継続）

健康で生き生きとした生活を送るため、また、高齢者にはフレイル\*や寝たきり予防のため、より多くの世代の市民が参加できるよう様々な工夫をこらし、ウォーキングやダンス、ボッチャなど生きがいづくりと併せて健康づくりの機会と場をつくります。

\*フレイルとは、健康な状態から要介護になるまでの中間的段階で虚弱状態のこと。

### ●高齢者福祉（公共交通対策含む）のさらなる充実を図ります（継続）

高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らし続け、できるだけ長い期間健康に過ごし、自分らしく人生を送れることを目指し、地域包括ケアシステムを推進します。医療と介護の連携の促進、在宅介護の充実、地域づくりの人材や介護人材の確保を進めます。健康寿命を延ばす健幸づくり、高齢者のスポーツや文化活動を応援します。

### ●生きがいを実感し、社会貢献できる仕組みを構築します（継続）

各種ボランティア団体やファミリーサポートセンターへの登録、参加を促すと共に、健康サポートクラブ、グリーンクラブ（公園管理）、地域コミュニティ（10地区68区）、子ども見守隊、観光ガイドなど、自らの経験や知見、興味などを通じ、生きがい・やりがいを実感しながら社会参加できる仕組みづくりを構築します。

## 4. 稼ぐ力をもった元気なまち

### 【産業・交流】



豊かな暮らしを創出するために、「稼ぐ力」を意識した戦略的な産業振興を推進します。各種産業振興策を展開することで魅力ある「商都・農都・住都こもろ」を創り、強い推進力とします。

民間のノウハウや活力などの協力で、農業、商工業、観光業、新規起業者への各種支援と、企業誘致を推進し、働く場を創出します。

**★優良生産農地造成プロジェクトを推進し、農産物の競争力を高めます（継続）**

包括連携協定を行ったJA佐久浅間と「攻めの農業」推進に向けたプロジェクトを加速させると共に、優良生産農地の造成やトップセールスによる販路拡大などにより農産物の競争力を高めていきます。また、長野県産ブロッコリー（本市のブロッコリーは長野県内シェア4割を占める。）が26年度から「指定野菜」になることを受けて、確固たる地位を確立すべく生産体制を強化します。

**★「小諸アグリシフトプロジェクト」の推進と併せ、2022年に開催した「米・食味分析鑑定コンクール世界大会 in こもろ」をレガシーとして良食味米を全国に向けて積極的にアピールします（継続）**

小諸の農産物のブランド化を推進するために「農」と「土壌」に着目した取り組みである「アグリシフトプロジェクト」をさらに推進します。そして、引き続き良食味米の有料産地「小諸」を全国に向け積極的に発信します。

**★各種トップセールスなどの実施により「小諸ブランドづくり」を推進します（継続）**

御牧いちごの商品化や浅間水蜜桃のジャムなどを積極的に全国発信し、個別農産物の「小諸ブランド化」を進めます。シャインマスカットやクイーンルージュなど新たな品目の産地化を計画的・戦略的に進めます。引き続き市内外の小諸ファンへ向けた情報発信を強化しながら、コアなファンを増やしていきます。

**★商工会議所やJA等の関係機関と連携しながら、経営や人材育成に対する的確な支援を行なうなど、中小企業振興策や農業振興策を充実させます（継続）**

市内企業の事業拡大や設備投資への支援を継続すると共に、大きな課題である人材確保への支援を強化していきます。引き続き商工会議所と連携し、起業者を育成すると共に空き店舗などの活用では外部人材の誘致や支援にも力を入れ、地域経済の担い手を確保します。

また農業分野においては専業生産者、後継者や新規就農者の発掘、優良農地の確保等につながる事業を進めます。温暖化など環境変化に対応する生産活動の研究をJAなどと進め、モデル事業などの実施に向け、起業を含む関係者と連携を強化します。またブランド化される個別農産物の高品質確保のための技術研修などを継続的に実施します。さらに新たな農業人材確保を他に先駆けて取り組み始めた「農ライフ」の推進を農ライフアンバサダーと共に積極的に図ると共に民間事業者との連携もさらに強化します。

**●他の自治体との差別化を図り、「こもろらしさ」を地域の強みに加えて、企業やビジネスの誘致を積極的に進めます（継続）**

企業誘致の競争力を高めるため、新産業団地の整備を着実に進めます。さらに本市の実情や特性（災害に強いまちであること、首都圏から近く交通の便が良いことなど）に合っ

た大学や企業の研修所、IT関連企業の集積、サテライトオフィス、シェアオフィスなどの誘致も強化します。

●**産学官や地域と連携することで、技術高度化や新産業の創出により地域産業の活性化を図ります（継続）**

市内の大多数を占める中小企業の振興を図ることを第一に、商工会議所や産学官連携協定を結んでいる信州大学、広域で構成する東信州次世代産業振興協議会などと連携し、成長分野へのシフト支援やマッチングによる新規事業の推進、受注機会の拡大、経済環境の急激な変化に伴う緊急支援策の充実等を図ります。

★**若者や女性が活躍できる職場づくりを行います（継続）**

若者や女性が積極的に活躍する企業や男性の育児休暇取得率の高い企業などの体制づくりを商工会議所などと協力して実現します。また、市役所はもちろん、市内の企業にも女性の幹部登用を促します。就労支援はもとより、社会で活躍している若者や女性を広報誌やCTK、インターネット上でも紹介していきます。

●**民間のチカラを活かした、「稼ぐ」ことをテーマにしたまちなか賑わいプロジェクトを推進します（継続）**

全国他市町村で「補助金に頼らない」、「稼げるまち」などをテーマとして成功した民間のチカラによるまちなかの賑わい創出事例を参考に、人材の発掘やプロジェクト推進の後方支援をします。

★**空き家、空き店舗対策を強化し、まちの活力を向上させます（継続）**

空き家等対策協議会の相談会等により空き家等の未然防止化を図ると共にこもろ観光局が計画した“まちなかホテル構想”と連携し、空き店舗や空き家の解消を促進することで、まちの活力を向上させます。

★**小諸城址懐古園や小諸市動物園の再整備を行います（継続）**

先人が守り遺した小諸城址懐古園やその周辺並びに、現在2期工事を実施中で2026年には開設100周年を迎える小諸市動物園の再整備は、次期以降も財政状況を勘案しながら計画的に実行します。特に老朽化が著しく、飼育環境が悪い飼育舎の改築や利用者の利便性向上のための施設は国の補助金と合わせて民間企業、個人の幅広い支援をいただき実現していきます。

★**「小諸ふるさと市民」事業や「こもろキャンパス構想」等の事業により、小諸のファンを増やし、交流人口・関係人口を拡大します（継続）**

交流人口、関係人口の増加は、小諸市の認知度向上はもとより、観光や農商業振興への貢献になり、さらに将来的にはUIJターンによる人口の社会増につながります。引き続

き、交流人口・関係人口を拡大する一環とし、物心両面で小諸を応援してくださる方を増やすためにも、効果的なプロモーションを行うと共に、地域にしっかりと溶け込み、地域活性化のキーマンになり得る人々を誘致します。またよりコアな小諸のファンを増やすため「小諸ふるさと市民」制度の見直し強化を図ります。

**★シティプロモーション（自治体が行う広報宣伝、営業活動）を戦略的に実施します（継続）**

これまで推進してきたシティプロモーションを市民や事業所の力もお借りしながら、より計画的・戦略的に行っていきます。さらには情報収集力向上を強く意識して機能強化を図ります。これにより魅力的な小諸を国内外に情報発信すると共に社会ニーズの的確な把握や有益な補助金獲得などの情報収集にも積極的に取り組みます。

**★大阪万博を見据えたインバウンド対策や地域資源を生かしたインバウンド対策を強化します（継続）**

こもろ観光局や民間事業者を中心として、宿泊・観光事業者のみならず、農商工事業者・市民団体、市民や市内外の小諸ファンなどが参画し、訪れるお客様が小諸の魅力を体感できるような取り組みを行います。特に2025年大阪万博で日本を訪れる国内外の観光客に滞在型・体験型の観光をしていただくような国際的な対応ができる仕組の構築、地域資源となったウイスキーやワインなどを通じて交流する観光客の誘致により、新たな雇用や経済効果につなげます。

**★観光振興のインバウンド対策だけでなく、防災対応も視野に入れ、無料Wi-Fiスポットの充実を図ります（継続）**

現在、小諸市内の公共施設における無料Wi-Fiスポットは限定的であり課題となっています。公共Wi-Fiに係る法規制等を十分考慮しながら観光振興や防災対応などの観点から、計画的にその拡大・充実を図っていきます。

**★IT関連企業の集積やサテライトオフィスやシェアオフィスの誘致を強化します（継続）**

ICT（情報通信技術）を活用した、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方であるテレワークの普及がコロナ禍で加速されました。IT関連企業の集積やサテライトオフィス、シェアオフィスなどの誘致を強化し、首都圏で働く人々の受け皿をつくります。そして、これらの取り組みを観光振興や市民との交流、移住・定住につなげていきます。

**●高地トレーニングを発展させ、スポーツ・観光・経済の振興や市民の健康増進など、市民益につなげます（継続）**

小諸市エリア高地トレーニング推進協議会を核として、トップアスリートや大学、実業団などのスポーツ団体の誘致活動を積極的に行うと共に市民ランナーなどの誘客につなげ、

観光・経済振興に結びつけます。さらにトップアスリートと小中学生をはじめとする市民との交流の成果や東海大学スポーツ医科学研究所などと連携して得られたデータを市民の健康づくりに活用します。

### ●歴史遺産や観光名所はもちろん、温泉、森林、食文化などの魅力的な資源を有効活用し交流人口、関係人口の増加につなげます（継続）

小諸には他にはない歴史遺産や観光名所はもちろん、8源泉10か所の温泉や自然豊かな森林【癒しの文化】、バラエティーに富んだ美味しい食文化（日本酒・ワイン・味噌醸造）【醸しの文化】など人の心に響く魅力的な資源が沢山あります。こもろ観光局や民間企業と協力しながら情報発信に力を入れ、近年盛んなリゾートテレワークやウエルネスツーリズムを取り入れ交流人口、関係人口の増加につなげます。このことにより「自分に還れる、何度でも帰りたい場所」としての地位を確立していきます。

### ★しなの鉄道、JR小海線や高速バスを活用した観光振興を推進します（継続）

しなの鉄道、JR小海線や高速バスの利用促進を図り首都圏を中心とした誘客を獲得するため、交通会社と様々な連携を図ります。また千曲川ワインバレー（東地区）の優位性を発信することなどにより観光振興を図ります。さらに軽井沢町・御代田町・東御市・佐久市などと広域で連携することにより「点」や「線」での発想から、浅間山麓を「面」として捉え、「観光ゾーン」としての強化を図ります。

### ●北国街道を活用した面的な観光戦略を立て、実践します（継続）

旧脇本陣を改修した旅籠・衆屋（くめや）を核として、北国街道沿いの街並みを将来にわたりまちの元気に活かしていきます。また飲食店や小売店、民泊などの誘致を積極的に行い、日本文化や歴史を愛する日本人旅行客やインバウンドをターゲットにした観光戦略を立て、実践していきます。さらに本陣間屋場の整備と合わせたエリアのブランド化を進めると共にまちづくりの人材誘致と担い手の育成も積極的に行い、小諸らしい賑わいの創出を図ります。

## 5. 安全・安心で暮らしやすいまち

### 【生活基盤整備】



多極ネットワーク型コンパクトシティによるまちづくりを推進し、市内全域の利便性を高めると共に全市民が安心して快適に暮らせるまちづくりを目指します。また、生活に欠かせない道路や橋梁等の社会基盤の適正な維持管理と長寿命化を図っていきます。あらゆる災害を想定した「災害に強いまちづくり」を進め、安全で安心な暮らしを守ります。

**★多極ネットワーク型コンパクトシティの形成に向け、市役所庁舎・小諸駅周辺エリアの公共施設・公共空間の有効活用を進めます（継続）**

市役所庁舎・小諸駅周辺エリアは利便性が高く、居心地のよい、開かれた拠点となるよう環境整備を進め、官民連携事業を創出しながら地域全体に波及するような価値や活力を生み出すことで関係人口・交流人口の増加や子育てしやすいまちづくり、脱炭素型のまちづくりを進めます。

**★コミュニティ交通（こもろ愛のりくん）の運営経費・受益者負担等の在り方を検討します（継続）**

今後の高齢者の利用増加を見越して、コミュニティ交通運営の効率化を上げること等の改善を行うことで、ムダを省いて運営経費の伸びを抑えながら、より良いサービスとコスト、また受益者負担との調和を図り、市民ニーズに応じた公共交通システムとしていきます。このことにより高齢者の外出の機会を創出すると共に交通事故の防止、快適に暮らせるまちづくりを実現します。

**●持続可能なコミュニティ交通（こもろ愛のりくん）の構築に向け、利便性・効率性の両立を図るための運行改善を行います（継続）**

国土交通省のコンパクトシティに第1号で認定されたことを活かしながら、国やUR都市機構、大学などの支援を受けて、持続可能なコミュニティ交通の在り方の研究調査を行い、利便性と効率性の両立を図るための運行改善を行っていきます。また、より多くの市民に利用していただくよう運行時間の拡大や市外への区域外運行を試行します。気軽に利用できるようWEBやSNSを使った予約システムについても積極的に検討します。

**★道路、橋梁等の改修は、将来にわたる持続可能性を考慮し、長寿命化計画に沿って計画的に実施します（継続）**

市街地、郊外の別を問わず市民の生活に欠くことのできない道路や橋梁の改修については、将来にわたる持続可能性を考慮した長寿命化計画に沿って着実に実施していきます。

**★公民共同企業体「(株)水みらい小諸」の委託業務管理を厳格に行うことで水道水の安定供給と事業の持続的な安定経営を進めます（継続）**

2019年に導入した公民共同企業体「(株)水みらい小諸」への一部業務委託のメリットを最大限に活かしつつ、業務管理を厳格に行うことで、引き続き小諸市の水道水の安定的な供給と事業の持続的な安定経営を図ります。併せて老朽化した施設の改修、維持管理を計画的に行っていきます。

**★災害に備え、「自助・共助」の重要性の啓発に積極的に取り組むと共に、全ての区において自主防災組織が設立されるよう働きかけを強化します（継続）**

啓発活動等を通じて市民一人ひとりの防災意識の向上を図ります。また、自主防災組織



を全ての区において設立することで災害対応力（地域の防災力）を向上させるなど、自助・共助の体制づくりを早急に進めていきます。

●あらゆる災害を想定した訓練と準備をすることで、大規模災害に対する本市の脆弱性を克服し「災害に強いまちづくり」を進めます（継続）

消防署や消防団、警察など関係機関の協力をいただき危機管理体制の充実を図ります。また個別避難計画を使って緊急避難誘導を想定した防災訓練を区・関係機関と連携して実施するなど地域防災力の向上を図ります。

さらに、消防署を市役所に次ぐ第2の防災拠点とすると共に、警察や自衛隊、気象台等の外部機関と連携して、大規模災害に対する脆弱性を克服し「災害に強いまちづくり」を進めていきます。

2024年度に県の総合防災訓練が小諸市で開催されることから、そのノウハウや知見をストックし本市全体の防災力向上に活かします。

## 6. 市民協働で支える健全な行財政経営

### 【協働・行政経営】



市役所が「市民のために役にたつ所」であるよう引き続き民間の発想と着眼点で、改革を恒常的に進めます。

財政規律の遵守と公共施設の集約化、複合化や総量縮減、そして産業振興などによる市税を中心とする自主財源の確保、ふるさと納税など「新たな財源確保」も積極的に行います。

自治基本条例の基本理念である「協働によるまちづくり」「市民主体のまちづくり」を推進するため、市民や自治会、各種団体等の理解を深め、自発的で主体的な活動につなげていきます。

★行政経営の「ムダ・ムリ・ムラ」を徹底的に排除し、市民益につながる業務に「人・時間・お金」を振り向け、行政サービスを向上させます（継続）

基本計画を基軸とした計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルを構築し、トータルシステムとして計画的な改善と適切な運用を図ってきました。今後は特に行財政改革の観点で、見直しと合わせて財政計画及び公共施設マネジメントを包含したものとして再構築していきます。

小諸市職員定員管理計画の見直しを行うと共に、日常からの業務改善意識の高揚と職場の心理的安全性の向上を推進することで、労働時間の圧縮などを図り、今後も市民益につながる事業へリソース（資源）を振り分けていきます。

**★財政規律の遵守と市税を中心とする自主財源の確保・強化、公共施設等総合管理計画の着実な実行を行います（継続）**

効率的・効果的な財政運営システム構築として、柔軟な予算執行と連続的な改善を可能とするために、第12次基本計画より財政計画を策定し、施策に対する予算的裏付けの付与を行い、複数年度予算の視点を持たせます。「公共施設等総合管理計画」の推進にあたっては、公共施設マネジメントを自然体の行政マネジメントシステムへ組み込み、基本計画の運用における事務事業の内容検証の一環として、公共施設のあり方を検証し、必要性の高い施設の統合・複合化、一定の役割を終えた施設の廃止などを進めます。

**★ふるさと納税やクラウドファンディング等を活用した自主財源の確保を図ります（継続）**

新たな財源確保のため、小諸の魅力を全国発信する中で、小諸を応援してくれる「小諸ふるさと市民」を増やすと共に、ふるさと納税やクラウドファンディング、ネーミングライツ等の民間の協力を得る形を強化し、引き続き毎年4億円以上の財源確保を図ってまいります。

**★SDGs（2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標）の理念を取り入れて小諸市の第12次基本計画を策定します（継続）**

SDGsは、2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない社会をつくるための「世界共通のモノサシ」です。小諸市には第11次基本計画においてSDGsの理念を取り入れて策定してきましたが、第12次基本計画においても取り入れて積極的に推進していきます。

**★市民団体等の広聴事業をこれまで以上に推進し、市政への市民参加を図ります（継続）**

参加と協働による市民主体のまちづくりを実現するために、これまで以上に市民や区、各種団体等の理解を深め、自発的で主体的な活動につながるように、タウンミーティングや広聴事業を活発に行います。また、区役員経験者や専門性の高い人材など地域のキーパーソンと職員が政策論議を行う有益な施策提案の機会を創ります。

**●女性幹部職員を積極的に登用すると共に女性委員等の参画率を向上させます（継続）**

今後も有効な職員研修の実施などを通して、女性幹部職員の候補者を育成し、幹部へ積極的に登用していきます。

引き続き女性参画率の向上のため、委員会や審議会などにおいては、男女のバランスの取れた構成を強く意識して委員を選考します。

**★地域職員連絡会により地域との連携を強化とソーシャルキャピタル（社会的つながり）の高い職員を育成します（継続）**

引き続き市職員で構成する地域職員連絡会と地域との連携の強化を図り、地域の実情に応じた助言、要望や課題を御用聞きする仕組みにより市政に確実に反映できるようにしていきます。また、ソーシャルキャピタル（社会的つながり）の高い職員を育成し、市議会、地域コミュニティ、市民活動リーダーとの連携を深め、地域が元気になるまちづくりを目指します。

**●将来発生する職員の成り手不足や行政の効率化に対応するために、自治体DXをさらに推進します（継続）**

少子高齢化、人口減少社会が到来しても持続可能な医療福祉、インフラ整備などの住民サービスを提供し続けるためには様々な業務改革が必要です。人口減は自治体組織にも大きな影響を与え、今後生じる若年人口の減少を背景とした自治体職員の“成り手”の減少が想定されます。加えて行政事務の効率化、生産性を向上させる必要から、AIやロボティクスの活用など率先して自治体DXを推進します。

**●自治会の今後の在り方（地縁団体への移行、合区等）に関する支援（継続）**

今後、高齢化の進展や区民の減少など様々な要因により、既存枠での自治会の維持存続が難しくなった場合には、市も住民本位の自治会の見直しになるよう積極的に協力してまいります。その際には地域職員が、身近な相談役として関わり、地域住民の意向の具現化に努めます。

なお、近年の区長の成り手不足や児童・民生委員等の各種役員の深刻な状況については、地域の自治を尊重しながら、市も共に解決に向けた努力を行っていきます。

**★佐久広域連合、佐久地域定住自立圏、3市町（小諸市、軽井沢町、御代田町）共同事業、東信州次世代産業振興協議会、千曲川ワインバレー東地区など広域連携をこれまで以上に強化します（継続）**

定住人口の確保や交流人口の創出、産業振興や観光振興、防災・減災など様々な分野で構成市町村が役割分担し、連携・協力することにより、必要な生活機能の確保や圏域全体の活性化を図ることが必要であり、その関係性をより強化していきます。

## 小泉としひろ後援会事務所

〒384-0808 小諸市御影新田 2529-1